

Document 5.**PATENT ABSTRACTS OF JAPAN**

(11)Publication number : 09-204389

(43)Date of publication of application : 05.08.1997

(51)Int.CI.

G06F 13/00

B42D 15/00

G06F 9/06

(21)Application number : 08-011656

(71)Applicant : SONY CORP

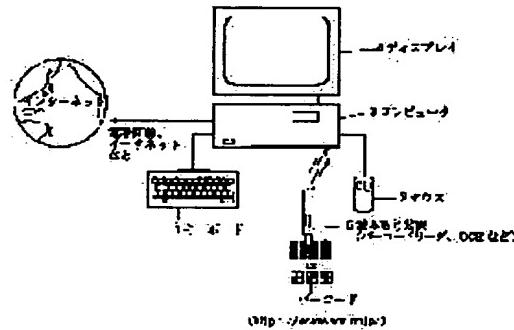
(22)Date of filing : 26.01.1996

(72)Inventor : KATO RYOHEI

(54) INFORMATION PROCESSOR, ITS METHOD AND PRINTED OBJECT**(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily access to desired information by receiving access destination information transmitted from a reader reading access information displayed on a printed object and giving access destination information to application based on the access destination information so as to access to the information.

SOLUTION: The reader 5 reads a bar code corresponding to access destination information of a desired home page in the printed object. At this time the reader 5 transmits the reading result of the bar code to a computer 3 and the computer 3 starts application for accessing to the home page corresponding to access destination information included there. Access destination information is given to the started application to access to a telephone line, an internet, etc., based on the access destination information to display on a display 4. Thereby it is easy to access to desired information.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

昭和二十一年十一月八日

100451 さらに、ステップS2.6では、リモコン用エンコード4.8において、その文字データが選択用データにエンコードされ、送信回路4.9に出力される。そして、送信回路4.9は、ステップS2.6において、リモコ

[10053] 次に、図5は、図1のコンピュータ3の構成例を示している。リモコン信号受信回路3-1は、読み取り装置5から送信されてくるリモコン信号を受信し、リモコン用データコード3-2に出力するようになされている。リモコン用データコード3-2は、供給されたりモコン信号を、対応する文字データにデータコードし、マイクロプロセッサー3-3に送出するようになされている。

[0054] ROM3は、システムプログラムを記憶しており、マイクロプロセッサー3-3は、ROM3から出

度、ピューアを起動する必要はない。そこで、マイクロプロセッサ34では、ステップS3において、ピューアが既に起動されているかどうかが判定される。
【0050】ステップS3において、ピューアが起動されていないと判定された場合、ステップS4に進み、ピューアが起動される。即ち、マイクロプロセッサ34は、読み取り装置5から送信してきたデータに含まれている起動指令情報を基づき、ハードディスク39に記録されているピューアとしてのアプリケーションを、インターフェース37を介して読み出し、RAM35に展開して実行する。
【0050】ここで、ピューアを起動するためだけではなく、

のビュー・アを起動するための起動コマンドが必要となる。即ち、ビュー・アが、ある1種類のビューに統一されている場合は、起動指令情報として、そのビューの

起動コマンドを記述しておけば良いが、現在のところ、ピューアは、複数種類存在し、各ピューアの起動コマンドは、ピューアごとに異なるため、HD39に起動され

た、ユーザが使用するピュアの起動コマンドが必要となる。
〔0060〕そこで、ユーザは、例えばキーボードを操作

操作することにより、HD39に記録されたビューティの自動コマンドを入力し、NVRAM36にあらかじめ用意させておくようになります。

10061】との場合、マシン上にセリフ34は、短動指令情報を受信したときに、NVRAM 36に記憶された起動コマンドを取得して、HD 39に記憶されたビデオ情報を組み合わせて表示する。

【0062】なお、マイクロプロセッサ34は、NVRAM36に起動コマンドが記憶されていない場合は、起動フランクチャーカオイクレジストリを読み込み、

ニ表示させ、ユーザに、起動コマンドの入力を促すようになされている。このメッセージを見たユーザにより起動コマンドが入力された場合、その起動コマンドは N

VRAM36に登録され、以後は、上述したように、マイクロプロセッサ34によってNVRAM36が参照されることで、ピュアが駆動される。

【0063】また、ピューアの粗動は、次のようにして行うようにすることもできる。即ち、ユーザに使用される可能性の高い幾つかのピューアの粗動コマンドを、N

VRAM36にあらかじめ記憶させておき、短割指令情報を受けた場合には、マイクロプロセッサに、HD39を参照させ、そこに記憶されているピュアを認識さ

せる。そして、その認識したピューアの粗動コマンドを、NVRAM 36から検索させ、そのピューアを粗動させるようにする。

【0064】あるいは、また、HD38に、ピューアを記録した状態で、コンピュータ3を観察するようになります。この場合、そのピューアの起動コマンドも、NVR AM36に記憶させておくようになります。

【0066】以上のようにした場合、ビューアを起動する命令を、ユーザーが知らなくても、ビューアを起動することができる。

【0067】ビューアが起動された後は、ステップS5に進み、マイクロプロセッサ34において、そのURLが読み取り装置5から送信されたURLが入力されたためのウインドウ61が表示される。その後、上述したように、ボタン63が操作されると、ビューア（マイクロプロセッサ34）において、そのURLに対応するホームページのアドレスが、インターネット3おおよびモード3.8を介して行われる。

【0068】即ち、ビューアが起動されると、ディスプレイ4には、例えば、図7に示すようなビューアのウインドウ61がオープンされる。このような状態において、所置するホームページにアクセスするには、そのホームページのURLを入力する必要があるが、URLを入力するには、その入力ための欄を開かせる必要がある（あるいは、ビューアのウインドウ51の上部に表示されているURL表示部54に、カーソル52を移動し、そこで、マウス2をクリックする必要がある）。

【0069】URLを入力するための欄を開かせるための命令が、上述のオープンコマンドであり、図7の実施例では、ボタン53をマウス2でクリックすることで、ビューアに対し、オープンコマンドが与えられるようになされている。併せて、通常は、ユーザーは、マウス2によって、カーソル52をボタン53の位置に移動させ、そこをクリックする必要があり、面倒である。

【0070】そこで、ここで、ステップS5において、オープンコマンドが与えられると、ビューアに対して、オープンコマンドも、ビューアによって属するため、上述した起動コマンドと同様にして、NVRAM36に記憶させておくようになる。

【0071】ステップS5においてオープンコマンドが与えられるとき、例えば図8に示すように、URLを入力するためのウインドウ61がオープンされ、ステップS6に進む。

【0072】ここで、図8において、ボタン63が操作されると、ウインドウ61に入力されたURLに対応するホームページへのアクセスが行われるようになされている。また、ボタン64が操作されると、ウインドウ61に入力されたURLが消去されるようになされている。

【0073】一方、ステップS3において、ビューアが、既に起動されていると判定された場合、ステップS7に進み、オープンコマンドが入力され（上述したように、マウス2によってボタン53がクリックされ）、これにより、URLを入力するためのウインドウ61が既にオープンされているかどうかが、マイクロプロセッサ34によって判定される。ステップS7において、ウインドウ61がオープンされないと判定された場合、ステップS6に進み、上述したように、ビューアにオープンコマンドが与えられる。

一でも長くなり、1行に取まらなくなることが考えられる。そこで、このような場合には、バーコードを複数行に分けて表示することも可能である。この場合、バーコードの読み込みは、複数回行われることとなるが、そのように読み込まれたバーコードが、1つのURLを表すことがあるように、ある行の次の行にバーコードが続いている場合には、例えは、その行の最後の部分に、バーコードが続く旨を表すパターンを配置するようになるのが好ましい。

【0081】また、本実施例では、印刷物に、URLや短割指令情報などを、バーコードで表示するようにして、ユーザーは、アリケーションの起動方法を知らない限り操作を行うことが可能となる。

【0081】図8が既に記載されたURLなどを読み取り装置5には、文字で表示されたURLなどを読み取り装置5には、その文書に制限がない、文字数の多いものがある（あるいは、ビューアのウインドウ51の上部に表示されているURL表示部54に、カーソル52を移動し、そこで、マウス2をクリックする必要がある）。

【0082】さらに、本実施例では、読み取り装置5に、ホームページのアクセスを表すアクセス先情報をしてのURLを読み取らせ、そのままページにアクセスするようになれる。例えばIPアドレスや、ファクシミリの番号（ファックス番号）、電話機の番号（電話番号）などを読み取らせるようになり、さらに、コンピュータ3には、電話番号、電話番号（電話番号）などを読み取らせるようになりますが、さもなくば、コンピュータ3には、例えばIPアドレス、ファックス番号、電話番号などと対応付けられたサーバ、FAX、電話機その他の情報処理装置にアクセスするようになることが可能である。

【0083】また、本実施例では、ビューアによって短割コマンドが異なることから、短割コマンドを表示するのではなく、短割指令情報およびオープン指令情報を表示するようにしたが、印刷物には、1つのホームページに対して、複数のページを表示するようにし、各バーコードには、主なビューアの短割コマンドを含ませるようにすることが可能である。この場合、ユーザーは、自分が使用しているビューアに対応するバーコードを、読み取り装置5に読み取らせるようすれば良い。

【0084】【発明の効果】請求項1に記載の情報処理装置および情報処理方法によれば、

本実施例に記載の情報処理方法によれば、印刷物に複数されたアクセス先情報を読み取り装置から送信されたアクセス先情報を復元され、そのアクセス先情報を基に、情報にアクセスするアリケーションに、アクセス先情報を年々、これにより、情報に対するアクセスが行われる。併せて、ユーザーは、所置する情報に、毎回（毎回）にアクセスすることができる。

【0085】請求項8に記載の印刷物には、アクセス情報とともに、情報にアクセスするためのアリケーションの起動を指示する短割指令情報が表示されている。従って、ユーザーは、アリケーションの起動方法を知らない限り操作を行うことが可能となる。

【0086】図8が既に記載されたURLが表示には、アクセス先情報を、图形パターンで表示される。併せて、アクセス先情報を解説良く説明することができる。

【図8の簡単な説明】

【図1】本発明を適用した情報処理装置の一実施例の構成を示す図である。

【図2】図1の読み取り装置5の構成例を示すブロック図である。

【図3】図2の読み取り装置5の動作を説明するためのプロセチャートである。

【図4】本発明の印刷物の一実施例の構成を示す図である。

【図5】図1のコンピュータ3の構成例を示すブロック図である。

【図6】図4のコンピュータ3の構成例の動作を説明するためのプロセチャートである。

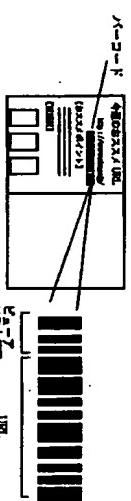
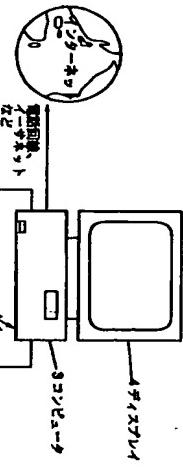
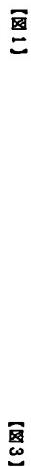
【図7】ビューアが起動された状態を示す図である。

【図8】URLを入力するための欄（ウインドウ61）が開かれた状態を示す図である。

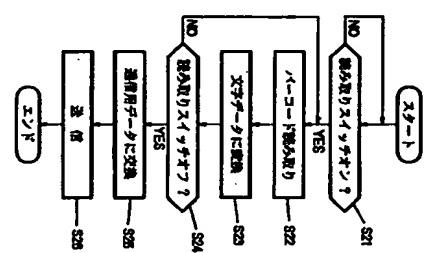
【図9】従来の情報処理装置の一例の構成を示す図である。

【符号の説明】

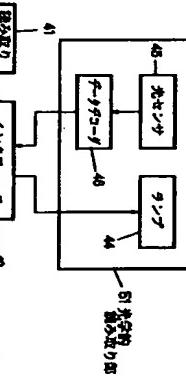
- 1 キーボード, 2 マウス, 3 コンピュータ,
- 4 ディスプレイ, 5 読み取り装置5, 31 リモコン信号受信回路, 33 ROM, 34マイクロプロセッサ, 35 RAM, 36 NVRAM, 38 モデム, 39 ハードディスク(HD)



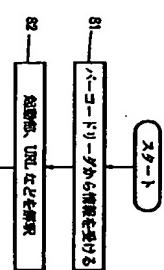
卷之三



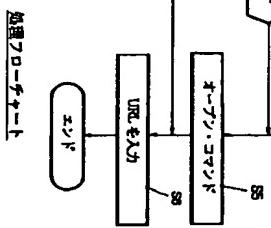
四



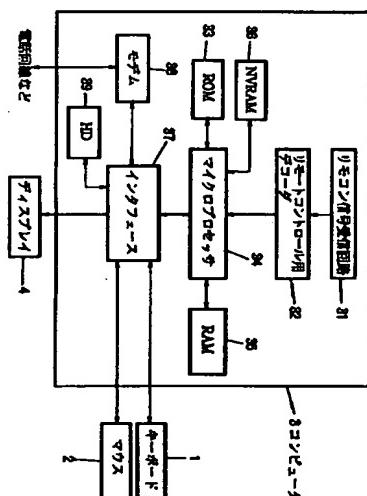
卷之三



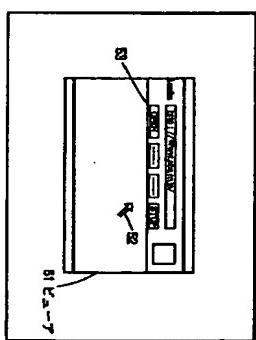
18



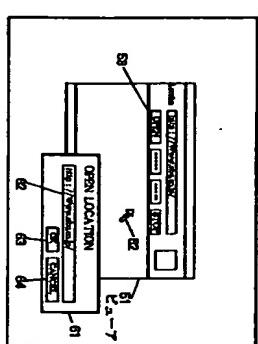
[四]



54



[8]



[図9]

